

宝石の輝き

落ち葉が敷き詰められた散策路をのんびり歩いていると、木漏れ日が差し込む林の中で“宝石”を発見しました。1cmほどの大きさで、真っ赤なリンゴのようにも見えます。筒状をした五角形の枯れかけた花の中からヒョッコリ顔をのぞかせているのは、ツルリンドウの実（種子）です。

ツルリンドウは、その名の通りつる植物ですが、ツタやクズのように茎を長く伸ばして高い樹木にまとわりつくのではなく、地面をはったり小さな植物に巻きついたりして、せいぜい40～80cm程度しかつるを伸ばしません。9月下旬から10月初旬頃に五角形の筒状で先が淡紫色の白い花を咲かせます。実がリンゴのように見えるのは、花柱（めしべの柱頭と子房との間の部分）がそのまま残っているからです。

さて、このツルリンドウの実は、日本に生息するリンドウ科植物で唯一の「液果」です。液果とは、ミカン、トマト、ブドウのように三層からなる果皮のうち中果皮または、内果皮が多肉質で水分が多く、軟らかい果実のことです。ただし、ツルリンドウは何の味もしないそうです。

冬枯れを間近に控え、うら寂しい散策路でリンゴのような“宝石の輝き”に出会えるといいですね。



ツルリンドウの実

森	の
日	記

草木染め教室
9月8日(日)

栗のイガやタマネギの茶色の薄皮などの草木を大鍋で煮込み、その中にゴムバンドで結んで畳んだ白い布を入れてさらに煮込み、さっと水洗いをして焙煎液につけると、思わぬ色に変化します。



ゴムバンドなどを緩めて、開くと、色とりどりのきれいな模様が…。「わあ～きれい！」と歓声が沸き上がりました。

第34回 陶史の森まつり
9月14日(土)



最高気温は26℃越えの蒸し暑い日でしたが、朝から大勢の人でにぎわいました。このまつりは、苗木プレゼントや木工教室、ちびっ子相撲大会など催し物がいっぱい。暑かったので“かき氷”が飛びように売っていました。もち投げでは、3つの区分で一斉に行い、まつりの盛大なフィナーレを迎えました。

教室のご案内

- 11月**
葉っぱのしおり作り教室（要申込・定員20人）
11月3日(日) 9:00～11:30
色づいた葉っぱを採集し、しおりにします。
バードウォッチング（自由参加、雨天中止）
11月24日(日) 9:00～11:30
晩秋の野鳥を観察します。
- 12月**
バードウォッチング（自由参加、雨天中止）
12月22日(日) 9:00～11:30
初冬の野鳥を観察します。

お知らせ

遊歩道の分かれ道などに「陶史の森 案内図」を今月中に設置します。26カ所設置予定で、設置場所には赤色で“現在地”と明記してあります。散策やウォーキングにご活用ください。

